

いのち
生命のにぎわい調査団

いのち
生命のにぎわい通信

第10号：発行日平成21年（2009）12月冬号

発行：千葉県環境生活部自然保護課
生物多様性戦略推進室
生物多様性センター
〒260-0852 千葉市中央区青葉町955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>
E-mail monitor@bdcchiba.jp

生きもの発見報告：冬はミノムシ類

「ミノムシ類（オオミノガ、チャミノガ）」を見つけに出かけよう

寒くなり、樹木が葉をすっかり落として裸になると、かえって見つかる生き物がいます。枯れ葉の下には越冬する昆虫がじっとしており、そして、枝などに付いているミノムシ類のミノを探してください。ミノガの幼虫がミノの中で越冬しています。

○ミノムシの蓑（ミノ）には、枯れ葉製と小枝製があり、大きさも異なる？違う種か？と質問をいただきました。

早速、調べてみました。ミノムシ類＝ミノガとして千葉県で普通に見られるのは、**オオミノガ** と **チャミノガ** です。

ミノガの幼虫は、口から吐く糸で葉等をつなぎ合わせて袋状のミノを作り、生育段階（7回脱皮）に合わせてミノを拡大していき、ミノの中で越冬して、春以降、蛹になり成虫へ羽化します。

ミノガのメスは、成虫になっても羽が無く、一生このミノの中で過ごします。オスは羽を持つ蛾になり、フェロモンで誘引されてメスのミノまで飛んで行き、交尾し、メスはミノの中に産卵します。

誰にでも馴染みの深いミノムシ類を調査対象生物とした理由は、西日本では、約10年前からオオミノガの生息数が減少しているのは、寄生虫（外来生物、南方系のオオミノガヤドリバエ）による影響であるといわれており、関東地域／千葉ではどうなっているのかを知るためです。発見報告では、ミノの大きさについてもcmを報告ください。写真を添付していただくと、どちらの種かわかりやすいので、お待ちしています。

理科の実験観察の本には、オオミノガのミノをハサミで切り開き、幼虫を取り出して、毛糸や布切れを入れておくと、色とりどりのミノを作らせることができると載っています。でも、今、冬の時期のミノの中では幼虫が冬眠中です、起こさないでください。

また、ミノの内側はミノムシが出した糸で柔らかいフェルト状になっており、越冬するための防寒対策は充分です。ミノは強く、ミノムシを食べようとする鳥やカマキリにも破かれることはなく、強風にも吹き飛ばされないようにしっかり枝等に付いています。

日本の伝統工芸には、このミノのフェルト状のマユで作ったお財布などがあります。

○冬鳥も渡ってきました。高い山から里へ鳥も降りてきました

県内の海岸、湖沼には、カモ類やコハクチョウ（本埜村）の群れがやってきました。また、落葉した静かな樹林で観察していると、パラパラと羽音がして、鳥のカラ類の混群がやってきて、ひとしきりにぎやかに飛び回り、また、次へ移って行きます。

混群は、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガなどのカラ類に、メジロやコゲラも加わっています。冬の時期を混群で過ごすのは、集団でいると、採食効率を上げるためと、外敵から身を守るためためといわれています。

そして、冬の谷津田の水路では、アカハライモリやサワガニがじっと過ごしています。寒いけれども、生命は確かに息づいています。



オオミノガ

★ミノでの見分け方

【大きさ】 40～50mm

【材料】 枯れ葉

【形状】 大きい紡錘形

【固定の仕方】 上端の糸でぶら下がる



チャミノガ

★ミノでの見分け方

【大きさ】 25～40mm

【材料】 小枝をミノの縦に並べる

【形状】 円筒形、端は少し細く

【固定の仕方】 枝等に斜めに付く、しっかりと直接付く

生物多様性に関する最新情報は、調査団のホームページで！

「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html> と 「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/> のホームページは随時、更新していますので、ぜひご覧ください。最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報を載せており、最新情報が盛り沢山です。



いのち

生命のにぎわい調査団



○生命のにぎわい調査団フォーラムの開催と事例紹介者募集のお知らせ

平成22年1月30日(土) 午後1時から4時 県中央博物館講堂
講演：図鑑を持って出かけよう。調査報告のまとめと今後の活用 他

調査団員の皆様が日頃行っている観察・研究やブログ等について事例紹介をしてみませんか？紹介して下さる団員を募集します。
今回も調査団員の写真をコンクールも行います。※別添のフォーラムのチラシ等をご覧ください。参加申込方法/写真応募方法があります

生き物を観察する、よく知る 身近な生き物と生態系を知ることから、人間と環境、と生物多様性へ！

○2010年は国連の定めた

"国際生物多様性年"です。

10月には愛知県名古屋市で生物多様性条約の第10回締約国会議「COP10」(締約193か国)が開催されます。日本は議長国であり、条約の3つの目的

- ・地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること
- ・生物資源を持続可能な方法で利用すること
- ・遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分することを踏まえた上で、持続可能な利用、気候変動、ビジネスと都市と生物多様性等多くの課題について議論される予定です

だれでも植物の名前がわかるインターネット野草図鑑づくりのモニターを募集します

いま、千葉県立中央博物館、茨城大学と一緒にインターネット野草図鑑づくりを行っています。

すでに第一版が公開されていますが、現在、全面改良版(右図)を作成中です。改良版はまだ20種類しか入っていない試作段階ですが、使い勝手を試していただけるモニターを募集しています。

改良版試作品(下記 URL)を試用して、感想や提案をメールでお送り下さい。

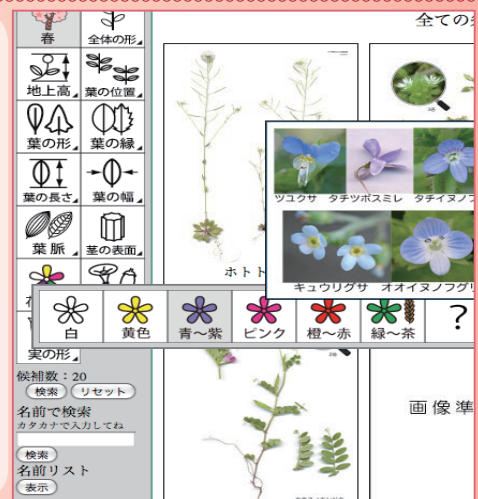
希望者には、改良版の ご案内などをメールで差し上げます。

(県生物多様性センター：斎木、中央博物館：天野)

試用版 http://chiba-muse.jp/yasou6/kensaku_9v3_zenjido.html

感想送り先 monitor@bdcchiba.jp

第一版 <http://www.chiba-muse.jp/yasou/>



生物報告の結果について

にぎわい調査団のHPには12月中旬までの生物報告を、生き物ごとに発見マップに加工して掲載しています。

<http://www.bdcchiba.jp/monitor/houkoku/houkoku.html> (団員限定：団員番号とパスワードが必要です)

発足後1年4か月で累計2,500件の報告をいただきました。

秋の季節報告「イチョウの黄葉日」「イロハモミジの紅葉日」やはり難しかった植物の色づき

判定：全ての葉が赤、黄色に変わりきった時が、紅葉(黄葉)日としましたが、今年も紅葉黄葉は、同じ地域/同じ公園内でも、木により時期がずれるという報告があります。また、イチョウでもモミジでも、緑の葉を残して落葉する事例もあったようです。

イチョウ黄葉日の報告は18件ありました。調査団では、今年は11月11日から始まり12月の初めまで(昨年は11月7日から12月初めまで)、銚子気象台の11月生物季節観測では、今年は11月20日(昨年は11月30日、平年11月27日)でした。

タカオカエデの紅葉日の報告は10件ありました。11月14日から始まり11月下旬まで(昨年は11月22日から始まり12月中旬まで)、報告数が少ないのは、庭園等にはきれいな紅葉をするカエデが植えられていますが、ちょうど紅葉日

にあたる観察は少なかったからでしょうか。

ビワの開花報告は11件ありました。

<事務局からのお願い>

HPの報告フォームから報告する場合に、同日に同じ場所で発見した数種の生き物の報告を(同じ日に報告送信する)は、見つけた場所「緯度、経度」(googleマップで位置を表示した数字のコピー&ペースト)はお手数ですが、1報告ずつ場所を選んで少し数字を変えてください。複数の報告に「35.1133, 140.1122」の小数点以下第14位の全て「同じ数字」をコピー&ペーストすると、報告集計中に重ね書きされてしまうので、ご協力願います。

○調査団現地研修会(今年度第2回)は、3月21日(日)に県立中央博物館分館海の博物館で、海辺の生物を観察する予定です。

